

「ヴァランシエンヌは誰を愛していたのか ヴァランシエンヌの陰謀」

生命科学科 1年 Y. T.

原作 アンリ・メイヤック (*L'Attaché d'ambassade*)
台本 ヴィクトル・レオン、レオ・シュタイン
作曲 フランツ・レハール
指揮 フランツ・フェルザー＝メスト
演出 ヘルムート・ローナー
初演 1905年12月30日 アン・デア・ウィーン劇場
鑑賞ソフト 2004年 チューリッヒ劇場

メリーウィドウの中で、大きく疑問に感じた部分がある。それが、ヴァランシエンヌは何故ずっとロシオンを諦められなかったのか、ということである。私はそれについての答えが見つけれなかったが、何度もメリーウィドウを見るうちに、違う結論にたどり着いた。すなわち、ヴァランシエンヌが本当に愛していたのはロシオンであり、ツェータ男爵とは金目的で結婚したのではないかという結論である。私が考えたヴァランシエンヌの計画は次の通りである。まず、ロシオンがハンナと結婚する。結婚後、ヴァランシエンヌはロシオンにどうにかハンナが持つ遺産をロシオン名義にするようにロシオンに申し込む。また、ツェータ男爵は高齢のために亡くなり、その遺産をヴァランシエンヌが相続する。ツェータ男爵はポンテヴェドロ公使であるため、ツェータ男爵の遺産はハンナのものほどではないものの、多いと考えられる。あとはロシオンがハンナと別れ、未亡人となったヴァランシエンヌと結婚する。これが、ヴァランシエンヌの計画であった。

まず、ヴァランシエンヌがツェータ男爵よりもロシオンを愛していたと思う根拠は、ヴァランシエンヌのそれぞれに対する態度である。ロシオンに対してはうっとりとしており、表情からもロシオンへの愛が感じ取れる。それに対して、ツェータ男爵に対しては声を高くして媚を売り、わざとらしくしているように感じる。相手を本当に愛しているという表情をしているのは、ロシオンに対してだけなのだ。また、ハンナにロシオンとの結婚を勧める際ロシオンはポルカもマズルカもワルツも上手なことを話していたが、このときヴァランシエンヌは「私がもう試したわ」と、いかにもロシオンが自分のものであるように話している。これは、わざとそのような発言をすることでロシオンに自分の好意を伝え、ロシオンの気持ちを自分に留めておこうとしたのではないだろうか。また、ロシオンがハンナと結婚するそぶりを見せるたびにヴァランシエンヌが嫉妬していることもヴァランシエンヌがロシオンを愛しているという根拠になるだろう。しかし、ハンナがエスコート役としてツェータ男爵を選んだ時はヴァランシエンヌが嫉妬している様子はなかった。

次に、ヴァランシエンヌがツェータ男爵と金目当てで結婚したと思う証拠であるが、これもいくつか挙げられる。まず、ヴァランシエンヌとツェータ男爵の年の差である。ヴァランシエンヌがまだ30代くらいであるのに対し、ツェータ男爵は高齢であり、少なくとも60歳を超えているように思われる。これほどの年の差婚では、金目当てであることを疑うことは間違いではないだろう。それに、物語の冒頭で妻に莫大な遺産を残し結婚してすぐに亡くなってしまう男に対して「まだまともな男もいるのね」という女性がいたが、その言葉は実際にその状況であるハンナについての言葉であったとともに、その状況を願うヴァランシエンヌにも向けた言葉なのではないかという解釈もできる。また、このソフトではハンナやヴァランシエンヌたちが歌う男たちについての歌があるが、男の種類についてヴァランシエンヌは「預金通帳付き」という歌詞をうたっている。これは、ツェータ男爵のことであり、ヴァランシエンヌがツェータ男爵を預金通帳付きの男としか考えてないということを表しているのだと思う。それを伝えるために、ヘルムート・ローナーはあえてこの演出を取り入れたのではないだろうか。

ヴァランシエンヌがロシヨンと別れようとしていたのはこれから少しの間ロシヨンと会えないのがつらくないように一度関係を断ち切ろうと考えたからではないだろうか。ロシヨンはたとえ別れたとしてもヴァランシエンヌのことを諦めないことをヴァランシエンヌはわかっているはずだ。そして、この計画がツェータ男爵をはじめ周りの人々に決して漏れないようにあえてヴァランシエンヌはロシヨンにこの計画を伝えなかったのではないだろうか。また、ヴァランシエンヌの「私の名誉は保たれる」や「私の面子をつぶしたくないでしょう」という言葉からわかるように、ヴァランシエンヌは自分の名誉を大切にしている。ゆえに、一度ツェータ男爵と結婚したからには、ツェータ男爵が活着している限り貞淑な妻であると言い続け、離婚することはしないだろう。

以上のことから、ヴァランシエンヌは最初に述べたような計画をたくらんでおり、ヴァランシエンヌが本当に愛していたのはロシヨンである。